

表彰対象 団体名	広報広聴課プロモーション係
-------------	---------------

推薦者	所属	市長公室広報広聴課
	職名	課長
	氏名	大垣 弥生

課題	市民の皆さんの地域への愛着と共感を大切にするシティプロモーションの推進
----	-------------------------------------

評価事業種別	☒ 発信・表彰	☒ 市民協創	☐ チャレンジ	☐ 災害支援・善行	☐ 地域貢献	☐ その他（ ）
--------	---	--	--------------------------------	----------------------------------	-------------------------------	---------------------------------

項目	内容
取組概要	「主体的に地域に関わろうとする意欲(推奨意欲・参画意欲・感謝意欲)」を増やすことで、市民の皆さんからの共感性に満ちたポジティブな情報を増やし、「暮らす価値のあるまち」という都市ブランドの構築を目指したシティプロモーションに取り組んでいる
取組効果	・事業に参加した多くの方が、継続して各課の事業や地域活動に参加されており、意欲の向上にとどまらず、実際の行動につながっている。 ・プロモーション事業に関わった108名の生駒を薦めたい意欲は86.11。市民実感度調査回答者の同意欲は△3.9であり、大きな差がある。 (10点～0点で市の推奨意欲を尋ね、10・8を推奨者、5・0を批判者として、推奨者の割合から批判者の割合を引くことで得る修正NPSで表す数値)
創意・工夫した点	アクセスや行政施策といった機能性だけを発信したり、ゆるキャラやバズる動画に頼ったりする一過性のプロモーションではなく、まちの魅力を語れる人や魅力をつくる人を増やすことを目指した事業(いこまち宣伝部、いこまちマーケット部等)を展開していること。 また、将来都市像を先駆けて体現するまちの人を軸にしたプロモーションサイトを運営することで、市の目指す方向性を明確に伝えていること。
推薦理由	「協創」をまちづくりの基本的な考え方として掲げる本市の代表的な施策として広く認知され、シティプロモーションの先進的事例として登壇依頼や視察が相次いでおり、市の取組や魅力を広く世間に広めていると考えるため
その他参考事項	事業開始から9年目を迎えた「いこまち宣伝部」は毎年視察があり、事業効果への可能性を感じた神戸市長田区、鹿児島県垂水市、三重県名張市、愛知県春日井市、山形県上山市をはじめ多くの自治体で同様の取組が始まっている。

取組を表す図や表、写真、成果物など
<2023年4月～2024年2月実績（予定含む）> ■イベント登壇 ・SIMCリージョナル2023（主催／宣伝会議） ・狭山ニュータウン地区次世代へつなぐシンポジウム（主催／大阪府狹山市） ・まちをもっと好きになるシティプロモーション会議(主催／宗像エリックス複合イノベーション実行委員会) ・真鶴カメラオンライン講座（主催／真鶴カメラ） ・全国広報広聴研究大会（主催／日本広報協会） ・自治体情報発信セミナー（主催／モリサワ） ・「写真によるまちづくり10年」トークショー（主催／OMデジタルソリューションズ） ■職員研修等講師 ・岡山県備前市職員勉強会 ・山形県上山市職員研修会 ・佐賀県内自治体広報担当者向けセミナー ・奈良県町村部会広報担当者向け研修会 ・奈良県情報発信力強化研修 ・県内自治体広報担当者向け研修会 ・福井県嶺北地域広報担当者向け研修会 ・福井市提案型勉強会 ・楽天社内セミナー ・福岡県古賀市職員研修会 ・北河内広報連絡協議会研修会 ・福島県大熊町職員町民向けセミナー ■行政・議会視察 ・三重県名張市 ・鹿児島県垂水市 ・大阪府摂津市 ・新潟県長岡市議会 ・佐賀県埴野市 ■事例掲載 ・書籍「ウェルビーイングを実現するライフデザイン」（第一生命経済研究所、2023年11月発行、東洋経済新報社） ・書籍「戦略的に成果を上げる！自治体広報のすごい仕掛け」（河井孝仁、2023年10月発行、学陽書房） ・360° EXPO拡張マップ～万博と共に注目すべき関西の活動群～（近畿経済産業局、2023年7月掲載） ■寄稿 ・月刊広報会議（宣伝会議）2023年11月号～2024年3月号「地域活性化のプロが指南」コーナーに連載

表彰対象 団体名	地域活力創生部 地域コミュニティ推進課
-------------	---------------------

推薦者	所属	地域活力創生部 地域コミュニティ推進課
	職名	課長
	氏名	梅谷 信行

標題	(新) いこまどんどこまつり
----	----------------

評価事業種別	☐ 発信・表彰	☒ 市民協創	☒ チャレンジ	☐ 災害支援・善行	☐ 地域貢献	☐ その他	()
--------	--------------------------------	--	---	----------------------------------	-------------------------------	------------------------------	-----

項目	内容
取組概要	【イベント会場】 どんどこまつり実行委員会及びどんどこまつり生駒駅前実行委員会主催 日時: 8月5日(土) 12時～20時 場所: たけまるホール・市役所東側駐車場・東新町児童公園・コミュニティセンター・市民活動推進センター「ららポート」・びっくり通り商店街・ベルテラスいこまベルステージ 【納涼花火】 20時～20時15分 むかいやま公園、総合公園体育協会S.Cグラウンド、高山竹林園の市内3か所
取組効果	駅前中心とした複数会場で実施することで、生駒駅前周辺の公共空間が一体となつてにぎわいを創出。また、人を分散させることで混雑を緩和させると共にボランティアや事業者の協力により、大幅に事業費を削減や既存事業(ららまつり・いこマーケット)とタイアップすることで相乗効果を生み出す等、これまで同様以上の賑わいを創出し新しい「どんどこまつり」の形を作り上げることができた。
創意・工夫した点	・駅前周辺を一体化となつて賑わいを創出するため、市役所東側駐車場、東新町児童公園、コミュニティセンターも会場として設定し新たな公共空間の活用 ・各会場のスタート時間をずらし、人の流れの管理し、各会場の混雑を緩和 ・うちわや花火の協賛を募るだけでなく、ボランティアの募集を再開する他、各種団体、民間事業者との協働により実行委員会として機能を持たせる ・市内自治会の夏祭りや既存事業とのタイアップによる相乗効果
推薦理由	本市の伝統のある一大イベントである「いこまどんどこまつり」を継続していくために、新たな実施体制の構築とまつりの形として作り上げることが出来たこと
その他参考事項	・友好都市交流事業として「敦賀市・上北山村・南あわじ市」が参加し物産販売を開催 ・うちわ、花火の協賛金・・2,138,000円(花火49事業者他・うちわ22事業者他) ・ボランティア・・13人(高校生11人・大人2人) ・どんどこまつり総来場者数・・まつり会場27,500人、納涼花火20,000人 ・翌日6日(日)に「あとのまつり」を開催 ・事業計画課「100円でバスに乗りよう」企画と同日開催他

取組を表す図や表、写真、成果物など

標 題	生駒市移動販売等導入支援事業 ～近所で買い物・気軽にお出かけ・つながる地域のWA～
-----	---

評価事業種別	☐ 発信・表彰	☒ 市民協創	☐ チャレンジ	☐ 災害支援・善行	☐ 地域貢献	☐ その他 ()
--------	--------------------------------	--	--------------------------------	----------------------------------	-------------------------------	----------------------------------

項目	内容
取組概要	複合型コミュニティ「まちのえき」づくりをはじめ自治会が取り組む活動の支援として、地域での買い物・見守り支援、地域のにぎわいづくり等に協力する事業者・団体等を「生駒市移動販売等支援パートナーズ」として登録し、事業を計画する自治会とパートナーズとを市が仲介し、地域での事業実施につなげる事業として令和5年度から進めている。
取組効果	地域が抱える課題でもある担い手不足や若い世代の自治会離れ、人間関係の希薄化等を解決すべく、民間事業者等外部から支援することで課題解決に繋がると共に、地域での買い物・見守り支援、地域のにぎわいづくり、地域内に外出機会を創出し、地域で顔の見える関係の構築等、持続可能なコミュニティづくりの一助となる。 【令和5年度11月末現在実績】 パートナーズ事業者数・19事業者 マッチング件数22件
創意・工夫した点	・令和3年にコロナ禍での支援策として127自治会を対象にアンケートを実施しニーズ調査 ・地域への移動販売のニーズ把握の為白庭台・ひかりが丘自治会を対象に実証事業を実施 ・自治会の活動を応援する事業者を広報誌等で募集。「生駒市移動販売等支援パートナーズ」として登録し、登録証、のぼりを貸与し事業者として広く周知 ・同事業の仕組み等を自治会回覧や自治連合会全体集会、市政研修会で説明し活用していただけるように周知
推薦理由	地縁組織の再生及び持続可能なコミュニティづくりに繋がる新たな自治会の支援策として事業展開しているため
その他参考事項	【登録事業者の内訳等】 飲食食材、日用品販売に限定せず、広く出張型サービスの提供者であれば一部例外を除いて登録可 飲食・食材提供(キッチンカー事業者、飲食物提供 等)…8 衣類・日用品(衣類ブランド、近商ストア)…2 出張型サービス(ヨガ、珈琲・スイーツ販売 等)…5 事業者ネットワーク(キッチンカー等の仲介事業者)…2 その他(介護の相談、運動指導 等)…2

11月 生駒市移動販売等支援事業

●事業実施は任意希望を尊重いたします。

生駒市移動販売等支援パートナーズ一覧

●生駒市移動販売等支援パートナーズ一覧（11月1日現在）

ご利用までのながれ

●事業実施の申込みから事業実施までのながれ／募集情報について（公開・随時等）

お申込みは事業実施日の3ヶ月前まで

●募集要項に準拠した場合には、事業実施日の3ヶ月前までに申込みを申し込みいただきます。

●チラシ等について

●募集要項からのお申し込みについて、事務局（地域コミュニティ推進課）へお問い合わせください。ご不明な点については、事務局までお問い合わせください。ご不明な点については、事務局までお問い合わせください。

●近所で買い物、気軽ににおかけ、つながる地域のWA

●取組みを地域の公園で実施する場合

●取組みを大々取組む場合など

●お問い合わせ先

●お問い合わせ先

ご利用までのながれ

お申込みは事業実施日の3ヶ月前まで

●募集要項に準拠した場合には、事業実施日の3ヶ月前までに申込みを申し込みいただきます。

●チラシ等について

●募集要項からのお申し込みについて、事務局（地域コミュニティ推進課）へお問い合わせください。ご不明な点については、事務局までお問い合わせください。ご不明な点については、事務局までお問い合わせください。

●近所で買い物、気軽ににおかけ、つながる地域のWA

●取組みを地域の公園で実施する場合

●取組みを大々取組む場合など

●お問い合わせ先

●お問い合わせ先

表彰対象 団体名	地域活力創生部 SDGs推進課
-------------	-----------------

推薦者	所属	地域活力創生部SDGs推進課
	職名	課長
	氏名	金子 雅文

課題	住宅地公募モデルとしては全国初！国の「脱炭素先行地域」選定
----	-------------------------------

評価事業種別	☒ 発信・表彰	☒ 市民協創	☒ チャレンジ	☐ 災害支援・善行	☐ 地域貢献	☐ その他（ ）
--------	---	--	---	----------------------------------	-------------------------------	---------------------------------

項目	内容
取組概要	・令和5年4月、2030年度までに家庭など民生部門の電力消費に伴う二酸化炭素排出の実質ゼロを目指す「脱炭素先行地域」に国から選定（選定当時全国で62件、県内12市では初。） ・公共施設や集会所等の民間施設、各家庭に再エネ設備を最大限導入し、いこま市民パワー㈱の電源として地産地消を促進するとともに、地域住民の交流拠点「複合型コミュニティ」の活性化により、省エネ型ライフスタイルの促進を図る。
取組効果	いこま市民パワーによる再エネ電力の供給や電力事業を通じたまちづくりと、「複合型コミュニティ」によるまちづくりの組み合わせによる相乗効果で、「地域の脱炭素化」と「住宅都市の活性化」を効果的に促進し、新たな脱ベッドタウンモデルの創出と市内外への波及を目指す。
創意・工夫 した点	市民満足度調査では、「低炭素・循環型社会」施策の重要性が医療や防災等より低く、環境活動等への理解を得ることが課題である。このため、多くの市民を巻き込むには環境を前面に出すのではなく、市民ニーズや地域課題に対応し、結果的に環境負荷を減らす取組となる複合型コミュニティづくりと連携した取組が効果的であると考え、自治会を対象に公募を実施した。公募による対象地域の募集は全国的にも前例がなく、国からもその独自性が評価されている。
推薦理由	・今回の取組はいこま市民パワーのほか、奈良先端大、市民エネルギー生駒、TJグループホールディングス、対象地域自治会など多様な主体と協働・連携して実施するため。 ・脱炭素先行地域選定を機に、これまで進めてきた環境モデル都市、SDGs未来都市、カーボンニュートラル宣言を行った本市の取組をさらに加速させ、より多くの市民や事業者等の協力を得て、協働・連携した取り組みを進めていくためのきっかけとするため。
その他 参考事項	【脱炭素先行地域選定時における国の評価委員会コメント】 取組対象の自治会を公募により選定することは合意形成手法として独自性が認められ、住民の積極的参加モデルとして評価。公募プロセスを継続することで、更なる横展開が図ることができると期待。 【選定後におけるメディア掲載等（他地域への展開に関する取組）】 寄稿（地域活性化センター等）、他自治体視察問い合わせ（鳥取県、松江市、和泉市、米沢市等）、講演依頼（三重県等）

取組を表す図や表、写真、成果物など

【脱炭素先行地域選定授与式の様子(R5. 6. 7)】

【取組の概要スキーム図】

表彰対象 団体名	市民部 人権施策課
-------------	-----------

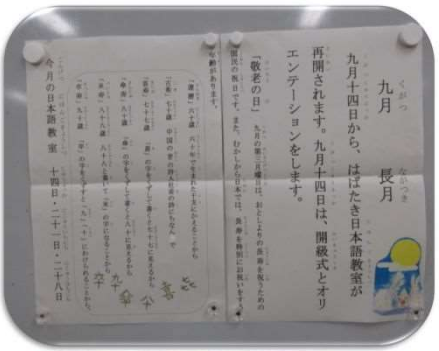
推薦者	所属	市民部
	職名	部長
	氏名	中谷 正之

標 題	地域住民ボランティアとの協働による外国人住民のための日本語教室の開催
-----	------------------------------------

評価事業種別	☐ 発信・表彰	☒ 市民協創	☐ チャレンジ	☐ 災害支援・善行	☐ 地域貢献	☐ その他（ ）
--------	--------------------------------	--	--------------------------------	----------------------------------	-------------------------------	---------------------------------

項 目	内 容
取組概要	人権施策課では、日常生活で日本語に困っている外国人住民等を対象として、市内2か所(はばたき教室・図書館教室)で週2回日本語教室を開催しています。 教室は、地域住民の支援ボランティアの皆さんと学習者によるマンツーマン形式で、会話や読み書きなど生活に必要な日本語を学習しています。
取組効果	本市の日本語教室は、「日本語を学べる場所」という本来の日本語教室の役割に加え、参加者同志が交流し、互いに理解を深め合う場所としての役割も担っています。 現在、はばたき教室では30名、図書館教室では16名が学習しており、61名が支援ボランティアとして登録しています。 日本語教室に集う外国人住民の方々が、地域社会の一員としての自覚を持ちながら地域とつながることで、居場所を見つけ社会的孤立を防ぐことにも寄与しています。
創意・工夫した点	教室は、コロナ禍による3年間の休講期間を経て、本年9月から再開しました。 再開にあたり、長期間休講状態であった教室運営を円滑に進めるため、各教室にコーディネーターを配置しました。 また、様々な生活環境にある学習希望者の選択肢を広げ、より利用しやすい環境にするため、従来は2教室とも夜間に開催していたものを、図書館教室は週末の日中開催に変更し、新たな学習者層へのアウトリーチが可能になりました。
推薦理由	県内でも数少ないマンツーマン形式での日本語学習を市主催で行っており、それぞれの学習者のレベルとニーズに合ったマッチングを行うなど、きめ細やかな支援をしています。 また、教室には奈良先端大の留学生やその家族も数多く参加しており、先端大との連携も同時に行っています。
その他 参考事項	

取組を表す図や表、写真、成果物など



表彰対象 団体名	市民部 環境保全課
-------------	-----------

推薦者	所属	市民部
	職名	部長
	氏名	中谷 正之

標題	回収食品点数が6倍に爆増！ フードドライブの裾野拡大と積極的な情報発信
----	-------------------------------------

評価事業種別	☐ 発信・表彰	☒ 市民協創	☒ チャレンジ	☐ 災害支援・善行	☐ 地域貢献	☐ その他 ()
--------	--------------------------------	--	---	----------------------------------	-------------------------------	----------------------------------

項目	内容
取組概要	食品ロスの削減を目的に、昨年度までは、たけまるホール(毎週木曜午前)、市役所環境保全課窓口(開庁時間内)で食品を集めていたが、より多くの市民が参加できるよう、小学校、市内11郵便局、他課主催イベントとのコラボレーションで実施機会を新たに創出。また、これらの取り組みについて、新聞やSNS等のメディアを通じた情報発信を積極的に行った結果、市民の食品ロスへの関心を高め、フードドライブ活動への参加の後押しにつながった。
取組効果	前年同期比で約6倍の食品点数を回収し、生駒市社会福祉協議会、たわわ食堂、フードバンク奈良に引き渡した(令和4年4～12月:700点、令和5年4～12月:4,023点)。 【新たに実施したフードドライブ(予定含む)】 真弓小学校、鹿ノ台小学校、いこま寿大学、市内11郵便局、地域共生サミットプレイベント「地域共生社会って何だろう?」、くらしのブンカサイ、ケアリンピック
創意・工夫した点	新たな実施機会を創出し、新聞やSNS等のメディアを通じてこれらの取り組みが多くの人々に伝えられた結果、市役所への問い合わせも増加し、期限の迫った災害備蓄品の持ち込み等、過去に例のない食品回収につながる効果も感じられた(ex.真弓小:10/25読売新聞)。 郵便局(日本郵便)イベントでは、当市の取り組みに共感したかんぽ生命も協賛し、日本郵政グループとして初のコラボフードドライブ企画を当市で実施することになった。
推薦理由	食品ロス削減によって環境を保全し、食料の支援を通じた問題の解消につながる新たな取り組みを企画・実行し、その認知拡大のための効果的なメディア活用や、市民や企業とのコミュニケーションを活性化させた実績は評価に値し、多様な主体との協創によって市民のニーズに応えたこれらの具体的な取り組みは、生駒市役所が担う役割をよく理解したものである。
その他参考事項	用語説明:フードドライブ フードドライブは、食品ロス削減によって一般廃棄物排出量の減量や処理費用の削減、支援を通じた貧困問題の解消を目的とし、余っている食品を集めて食料の支援を必要とする人に寄付をする活動。地方自治体自らがフードドライブを実施することで、地域住民の食品ロスへの関心を高められるほか、フードドライブ活動への参加の後押しにもつながる。

取組を表す図や表、写真、成果物など

【児童発信】真弓小学校deフードドライブ



フードバンク奈良への持ち込み



生駒市社会福祉協議会への持ち込み



【他課との連携】「地域共生社会って何だろう?」の啓発ブース



フードバンク広がる



食品ロス削減にも
真弓小を取り上げてくれた
読売新聞(10/25)



郵便局deフードドライブ



かんぽ生命協賛 X 場所の貸出し 日本郵便

表彰対象 団体名	福祉政策課
-------------	-------



推薦者	所属	福祉健康部
	職名	部長
	氏名	吉村智恵

標題	重層的支援体制整備(かさねるいこま)～誰ひとり取り残さない体制づくり～
----	-------------------------------------

評価事業種別	☐ 発信・表彰	☐ 市民協創	☒ チャレンジ	☐ 災害支援・善行	☒ 地域貢献	☐ その他 ()
--------	--------------------------------	-------------------------------	---	----------------------------------	--	----------------------------------

項目	内容
取組概要	「どこに相談したらよいか分からない」「こんなこと相談してもいいのかな」という悩みを解消するため、既存の相談支援事業所の協力のもと、どのような相談でも丸ごと受け止める「いこまる相談窓口」の取組を市内23か所で開催。福祉政策課に「いこまる主任推進員」を含む重層推進チームを結成し、支援担当者への支援するとともに、支援の「はざま」となっている方に対して直接的な支援を行うことで、「誰ひとり取り残さない」体制づくりを進めている。
取組効果	いこまる相談窓口には開始5か月で34件の相談があり、必要な助言を行い適切な機関へつないでいる。また、福祉政策課で支援担当者への支援を行うことで、相談を受けた相談支援機関の支援者がひとりで抱え込むことなく安心して相談支援を行えるようになったとの声もある。さらに、今まで「支援のはざま」となって支援を受けられなかった方に対し、重層推進チームが直接的な支援を行うことで、必要な支援を供給することができた。
創意・工夫した点	既存の各分野の相談窓口で分野外の相談を受け止めてもらうことについて、窓口職員が負担と感ぜないように丁寧に対話を重ね、取組の実施に至った。また、「重層的支援体制整備事業」という馴染みにくい名称を「かさねるいこま」とし、事業の内容を分かりやすく周知啓発することで、行政職員だけでなく福祉事業所や地域の方々にも知っていただけるきっかけとなった。
推薦理由	「いこまる相談窓口」や「かさねるいこま」といった柔らかく地域の方々にも馴染みやすい表現を用いて、既存のイベントにかさねるいこまのブースを出し、「まちのえき」でリーフレットを配り地域の方々や顔の見える関係づくりに努めるなど広く周知を行うことで、SOSの発信が苦手な方にもつながることができるよう相談のハードルを下げた。また、「支援のはざま」となっている方に直接支援を行うことで、誰しもを支援できる仕組みが構築できた。
その他参考事項	福祉というのは煌びやかで華やかな事業ではない。一人ひとりの困りごとに対し真摯に向き合うことの積み重ねである。複合的な困り事が増えてくる中、担当者一人が向き合うことに限界があることから、一人ひとりの困りごとに対し、このような行政・地域・市民一人ひとりが協働し支え合う仕組みを「かさねて」いくことで「誰ひとり取り残さない」生駒市のネットワークができると考える。

取組を表す図や表、写真、成果物など

★重層的支援体制整備事業…介護、障がい、子育て、生活困窮といった分野別の相談体制では解決に結びつかないような「くらしの困りごと」に対応するため、市全体で包括的な支援体制を整備する事業。

★かさねるいこま…相談支援・参加支援・地域づくりの各事業を「かさねる」こと、分野を越えた支援を「かさねる」こと、公的支援と民間事業者や地域等の支援を「かさねる」ことを意味している。

★いこまる相談窓口…庁内7課、委託16機関の協力のもと、「どのような相談でも丸ごと受け止める」取組を開始。必要に応じて適切な機関に「つなぎきる」ことを意識して実施。各機関に目印としてロゴを掲示している。

★いこまる相談会…相談のきっかけづくりとして月1回第3火曜日に対面とオンラインの相談を隔月で実施。4日前までの予約制とすることで、それぞれの悩みに対応できる職員が相談を受け、必要な機関につないでいる。

★おでかけいこま…市民が「集いの場」を簡単に検索できるように、市内で定期的実施されている活動の所在地・サービスを地図上にまとめたWEBサイトを作成。

*いこまる主任推進員…支援担当者への支援としてアドバイスや他支援機関とのつなぎを行うとともに、多機関での検討が必要な事例を重層的支援会議で検討できるよう支援する役割をもつ。会計年度任用職員として福祉政策課に2名配置。

表彰対象 団体名	障がい福祉課・福祉健康部内協力職員
-------------	-------------------

推薦者	所属	福祉健康部
	職名	部長
	氏名	吉村智恵

標題	いこふく出張所/いこふくフェスティバル開催 ～障がいのあるなしにかかわらず誰もが安心して暮らせるまちへ～
----	--

評価事業種別	☐ 発信・表彰	☐ 市民協創	☒ チャレンジ	☐ 災害支援・善行	☐ 地域貢献	☐ その他（ ）
--------	--------------------------------	-------------------------------	---	----------------------------------	-------------------------------	---------------------------------

項目	内容
取組概要	障がい者理解の促進と、福祉的就労の充実・授産品販売の機会創出を目的として、市内障がい者就労施設が手がける授産品の出張販売イベント「いこふく出張所」の定期開催を市役所1Fロビーで開始したほか、近鉄百貨店6Fのiスクエアにて、「いこまのふくし」を「学ぶ」「体験する」「買う」が一度に楽しめるテーマ複合型祭典「いこふくフェスティバル」を開催した。
取組効果	「いこふく出張所」は、市役所1Fスペースを有効活用し、障がい当事者自らが売り子をするなど、障がい者理解や多様な交流機会づくりのほか、当事者の工賃確保にも寄与している。 「いこふくフェスティバル」は、普段「福祉」や「障がい」などに触れる機会が少ないような一般買い物客をターゲットに幅広く呼び込むことに成功し、障がい当事者・支援者との多様な交流が生まれるなど、地域共生社会の実現への興味関心を高めるきっかけづくりに貢献した。
創意・工夫した点	「いこふくフェスティバル」の開催準備にあたっては、包括協定締結先である近鉄グループホールディングス傘下の近鉄百貨店生駒店や、日頃つながりがある支援者・団体等の多大な協力も得て、実施決定から約1か月で開催することができた。 また、障がい当事者と対戦するボッチャ体験や、聴覚障がい者が講師を務める手話講座など、各テーマごとに、当事者が自分の役割を持ち、それぞれが活躍できる機会が生まれるよう細やかな役割分担の工夫を行った。
推薦理由	「いこふく出張所」の取組は、市役所の目立つ場所で定期的に福祉ショップを開設することで、障がいのある方たちの働く姿を多くの市民が目にし、また授産の購入を通じた交流で、広く障がい者理解を促進するための端緒となった。 「いこふくフェスティバル」の取組は、多様な主体を巻き込みながら、それぞれの活躍機会の創出と、広く市民に向け、地域共生社会について考えるきっかけづくりにつながった。
その他 参考事項	「いこふくフェスティバル」は、生駒市社会福祉協議会、市内障がい福祉事業者らで構成されたネットワーク「I-Net（アイネット）」、障がい当事者・ご家族、支援ボランティア、市内の福祉用具事業者の皆さんの多大なご協力を得て開催した。

取組を表す図や表、写真、成果物など


表彰対象 団体名	地域医療課
-------------	-------

推薦者	所属	福祉健康部
	職名	部長
	氏名	吉村智恵

課題	人生会議(ACP)の普及事業 ～エンディングノートの作成～
----	-------------------------------

評価事業種別	☐ 発信・表彰	☒ 市民協創	☒ チャレンジ	☐ 災害支援・善行	☐ 地域貢献	☐ その他 ()
--------	--------------------------------	--	---	----------------------------------	-------------------------------	----------------------------------

項目	内容
取組概要	人生会議(ACP(アドバンス・ケア・プランニング))の普及啓発を目的に、人生の最終段階における医療やケアについて事前に考え、繰り返し話し合い、共有するためのツールであるエンディングノートを生市内の医療・介護従事者の参画を得たワーキンググループと在宅医療介護推進部会員により作成した。
取組効果	◇市民に対して 人生の最終段階において約7割の人が医療やケアについて自分で決めたり、望みを伝えられないと言われていますが、本ノートを活用し自分の意思を示し共有することで、自らが希望する医療やケアの提供が期待される。 ◇医療介護従事者に対して 市内の専門職が共通で使えるノートがあることで、ACPIに対して共通の理解がされ、質の高いサービスの提供が行える。
創意・工夫した点	(1) 市内の医療・介護従事者が集まって意見を交わし作成したことで、現場を知る専門職が本人や家族の気持ちの変化や、必要とするケアを踏まえて作成できたこと (2) 本人とコミュニケーションを取りやすいように医療ケアに関する希望を自由記載にしたこと (3) 市民に手に取ってもらいやすく、ノートを知ってもらえるよう、冊子のタイトルを広報紙、SNS、市役所ロビーを使って市民投票により決定したこと
推薦理由	ワーキングメンバーの医療・介護従事者と何度も協議を重ねたことにより、人生の最終段階における医療に関わる医療・介護従事者の目線や、実際に介護を受けている市民の思いも盛り込んだ生駒市オリジナルのエンディングノートができあがったため。
その他参考事項	

取組を表す図や表、写真、成果物など



エンディングノート
(生駒市版)

投票
受付中!

人生会議(ACP)の普及啓発を目的にエンディングノート(生駒市版)を生市内の医療介護従事者の皆さんと一緒に作成しました。
まずは、ノートを知っていただくきっかけとして、**タイトル投票**を企画しました。
皆さんの投票をお待ちしています!

【メインタイトル候補】

- ・最期までわたらしく
- ・もしものために
- ・わたしノート
- ・想いを伝える「私ノート」
- ・私の人生ノート

【サブタイトル候補】

- ・まだ元気やけど言っとくわ
- ・自分らしく最期を迎えるために
- ・もしもの時のために私が伝えたいこと
- ・最期までわたらしく生きるために伝えたいこと
- ・託したい思いと共に

表彰 対象者	所属	上下水道部下水道課工務係
	職名	主査
	氏名	本多 輝明

推薦者	所属	上下水道部
	職名	部長
	氏名	岸田 靖司

標 題	若手技術職員と前職の経験をシェア！！！！					
-----	----------------------	--	--	--	--	--

該当事業種別	☐ 発信・表彰	☐ 市民協創	☒ チャレンジ	☐ 災害支援・善行	☐ 地域貢献	☐ その他（ ）
--------	--------------------------------	-------------------------------	---	----------------------------------	-------------------------------	---------------------------------

項 目	内 容
取組概要	契約検査課主催の技術職員研修会の講師を務め、前職での経験や他自治体の職員の取組を、若手技術職員とシェアされました。
取組効果	前職での経験に基づく講話により、若手技術職員の知識を深めた。
創意・工夫 した点	自身の経験だけにとどまらず、他自治体の同世代(若手)の職員がどのような意識で業務に携わっているか、どのような取り組みをしているかを発信し、意識改革・業務改革に役立ててもらえるように創意・工夫された。
推薦理由	本市入庁1年目であるが、他自治体での技術職員としての職務経験を、若い世代へ伝え意識改革や技術の継承に役立ててくれました。
その他 参考事項	受講者のコメント ・貴重な話で、身が引き締まる思いだった。 ・実際の経験を共有してもらい今後注意すべきことが学べいい機会になった。 ・一つ一つの工事工程の大切さを感じた。 ・工事の大変さを改めて感じる事ができた。

取組を表す図や表、写真、成果物など



技術者研修②

令和 5年 9月 20日 (水)
15:00～16:30 302会議室
上下水道部 下水道課 本多輝明

本日の発表内容

1. 自己紹介
2. 今まで取り組んできた仕事について
3. 職員の取組み内容から提案
4. 工事中に経験した事故(大変だったこと)
5. おわりに

職員の取組み(2/2)

・業務改善について
★業務改善マニュアルの作成
各種様式などの整理。(庁内サイト)
どんな基準がどこに掲載されているか。(仕事のやり方の見える化)
⇒目標、1年目でも取り組めるように。
(積算基準の疑義事項など共有 (積算委員会の実施))
・出前講座(小・中学生) 事業紹介、意識啓発を目的
アドブロードプログラム(府民連携)
植栽、工事現場の見学会
⇒庁内サイトに投稿して情報共有

まとめ(工事中の事故や自然災害に備えて)

- ・国、県の事業で市の施設が被害を受けることも。国・県の立場では基礎自治体である市が頼り。日頃からの情報共有が大切。
- ・庁内調整よりも対外調整を優先させること。(現場優先)。
- ・緊急連絡先が使用できるかの確認
- ・有事の際は、信頼関係が大事。(同僚に感謝)
- ・人は動けて72時間。勇気をもって交代。
- ・仮眠室等、健康維持に必要な施設の確保。(寝袋、簡易ベッド)
(東南海地震、生駒断層地震に備えて)

※本資料の作成にあたり、多くは大阪府ホームページより引用させていただきました。

表彰対象 団体名	上下水道部(上水道部門)
-------------	--------------

推薦者	所属	上下水道部
	職名	部長
	氏名	岸田 靖司

標題	応急給水設備整備事業・応急給水対策事業
----	---------------------

評価事業種別	☐ 発信・表彰	☐ 市民協創	☐ チャレンジ	☐ 災害支援・善行	☐ 地域貢献	☒ その他 (災害対策の充実)
--------	--------------------------------	-------------------------------	--------------------------------	----------------------------------	-------------------------------	---

項目	内容
取組概要	災害時や断水時の飲料水確保のため、地元住民の協力を得て容易に給水活動ができるような取組を行っている。 ①真弓配水場に緊急遮断弁及び応急給水設備を設置 応急給水設備は5箇所目。今後も継続して設置していく。 ②受水槽のない避難所7箇所に組立式給水タンクを設置 ③令和4年3月に購入した2.7tの給水車を用いた給水訓練 日本水道協会奈良県支部及び関西地方支部合同防災訓練・水道事業での給水訓練
取組効果	災害時や断水時に迅速・効率的に給水できる。
創意・工夫 した点	①緊急遮断弁は水道管の破損時に配水池からの水道水流出による二次災害を防ぐ効果がある。 ②地元住民でも手軽に運べるような軽量なもの、かつ耐久性のあるものを配備した。 ③本市で一番容量のある給水車であり、他の自治体への応援給水の際には大量の水を一度に運搬できるため、有効かつ効果的である。
推薦理由	水道は市民生活を支える重要なライフラインであり、災害時や断水時に備えた取組を継続して行っているため。
その他 参考事項	

取組を表す図や表、写真、成果物など

①



②



③



表彰対象 団体名	生涯学習部 生涯学習課 生涯学習係
-------------	-------------------

推薦者	所属	生涯学習課
	職名	課長
	氏名	清水 紀子

標題	働き盛り世代の学びの場「ischool」の展開
----	-------------------------

評価事業種別	☐ 発信・表彰	☒ 市民協創	☒ チャレンジ	☐ 災害支援・善行	☐ 地域貢献	☐ その他 ()
--------	--------------------------------	--	---	----------------------------------	-------------------------------	----------------------------------

項目	内容
取組概要	働き盛り世代を対象とした取組として、令和4年11月に「ischool」を立ち上げ、令和5年度から本格実施。「子どもと学ぶ」「生駒のまちを知る」「新しい自分に出会う」等のカテゴリー別に多様なテーマの講座を行い、学びと交流の機会を創出している。講座の実施にあたっては、市民からの企画提案や教育機関、市民団体、庁内他課等、多様な主体との協働により行っている。
取組効果	・「すぐー」での発信によりターゲット層の参加が多数得られており、子どもと一緒に学ぶことで保護者の学び(新たな情報や知識の習得、価値観のアップデート等)につながっている。 ・各講座では市内の団体や取組の紹介等を通して、受講者の新たな活動や挑戦への後押しをしたり、日々の暮らしや生き方の選択肢を広げるきっかけづくりとなっている。
創意・工夫した点	・対象世代のニーズや関心の高いテーマ選びを行うとともに、「楽しそう!」と思ってもらえるよう、毎回学びの中に興味を持ってもらえる要素を取り入れている。 ・開催日を土日とするほか、オンラインも活用し現役世代がより参加しやすくしている。 ・WEBサイトを開設し、実施レポートを含めて学びの内容を積極的に発信している。
推薦理由	学びの場づくりにあたって、多様な主体との協働のスタイルを確立しながら、これまで生涯学習の事業に参加の少なかった働き盛り世代に積極的にアプローチし、30～40代の市民の受講につながっている。
その他 参考事項	・実施した講座数(R4.11～R5.12):計27講座 ※R6.1～3に7講座を実施予定 ・受講者数(R4.11～R5.12実施):計701人 (参加率(対定員):100%) ※別途R4.11～12にオープニングイベント(講演会)を2回開催、参加者計493人 ・受講後「生活に活かしたいことがあった」の回答率:74.5%

取組を表す図や表、写真、成果物など

■参加者の状況

応募倍率 3倍

30～40代 81%

満足度 97%

暮らしのアイデアを得た 70%

■講座風景

「子どもと学ぶ」

「いこまの星空教室」

「生駒のまちを知る」

小平尾町「ワクワク農園」

「新しい自分に出会う」

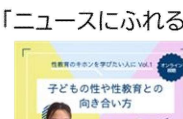
「おうち起業のはじめ方」

「3Dプリンタでキーホルダー製作」

「3Dプリンタでキーホルダー製作」

社会科見学「浄水場」

社会科見学「浄水場」

「ニュースにふれる」

「性教育講座」(オンライン開催)

■ischool Webサイト

<https://ischoolikoma.com/>



表彰対象 団体名	生涯学習部 スポーツ振興課
-------------	---------------

推薦者	所属	生涯学習部
	職名	部長
	氏名	八重 史子

標題	障がい児の体づくり運動プログラム“できるがみえる”の構築と実施
----	---------------------------------

評価事業種別	☐ 発信・表彰	☒ 市民協創	☒ チャレンジ	☐ 災害支援・善行	☐ 地域貢献	☒ その他（地域スポーツの推進）
--------	--------------------------------	--	---	----------------------------------	-------------------------------	--

項目	内容
取組概要	子どもたちのもっと！遊びたい！動きたい！○○したい！を叶えるため、運動に対する主観的な自己評価の向上を図り、他のスポーツへの参加意欲を向上させることを目標に、特別支援学級の児童を対象とした学校生活で頻度の高い“跳ねる”“投げる”“蹴る”の3つの動きを小集団で実施する「体づくり運動プログラム“できるがみえる”」を、作業療法士などと構築するとともに開催し、障がい児のスポーツにふれあうきっかけやスポーツ活動の支援を行った。
取組効果	参加児童の保護者を対象にアンケートを実施し「できないと思っていた運動ができることがわかった。」など好評を得ており、障がい児のスポーツ活動へのきっかけづくりとなっている。
創意・工夫した点	事業の実施に際し、障がい者団体や障がい者支援団体へヒアリングなどを行うことで、具体的なニーズの把握を行った。 また、作業療法士や理学療法士などの専門家の協力を得て、参加者一人ひとりに対してフィードバックを行うなど、参加者や保護者に効果の見える内容とした。
推薦理由	障がい者スポーツでは、施設のバリアフリー化などハード面の取り組みは一定進んでいるが、活動支援などのソフト面の取り組みは、全国的に見てもあまり進んでいない現状である。 その中で、体づくり運動プログラムは、障がい児の継続したスポーツ活動を目指して、参加者一人ひとりに寄り添った内容の事業として実施している。
その他参考事項	障がい者スポーツ事業は「できるがみえる」や「スポパ」など親しみやすいネーミングも相まって、スポーツを身近なものと感じてもらえることができる事業として、参加者や関係者から好評を得ている。また、実施にあたっては、スポーツ推進委員や障がい者支援団体、市内総合型地域スポーツクラブ、スポーツ施設指定管理者などと連携し、参加者にとって安全で気軽に楽しめる内容としている。

取組を表す図や表、写真、成果物など



作業療法士・理学療法士
スポーツ指導者による
体づくり運動プログラム
“できるがみえる”

子どもたちのもっと！遊びたい！動きたい！○○したい！へ

運動に対する主観的な自己評価の向上を図る
他のスポーツへの参加意欲向上

生駒市在住・在学の特別支援学級に通う小学生
原則として4回全てに参加できる人

20名（各回10名）
（応募者多数の場合は、抽選とさせていただきます）

開催日時・場所
令和5年9月10日（日）
9月24日（日）
10月29日（日）
11月19日（日）

【午前クラス】 9:30～11:00（9:15受付開始）
【午後クラス】 12:45～14:15（12:30受付開始）
（両クラスは同内容となります。途中でのクラス変更はできません。）
むかいやま公園体育館（萩原町673番地）
※無料駐車場あります

学校生活で頻度の高い“跳ねる”“投げる”“蹴る”
3つの動きを小集団で実施

締切：令和5年8月11日（祝）
抽選結果通知：令和5年8月18日（金）

お申込はこちらから
費用 無料

申込先
生駒市生涯学習部スポーツ振興課
TEL 0743-74-1111（内線3761）

障がい(児)者のためのスポーツパーク 無料 申込不要

Supopa
にいてみよう！

2023年5月27日(土)
10:00～15:00
in 生駒市体育協会総合S.C.

体育館を無料開放!!
現場ならではの指導・アドバイスが
盛り込まれたイベントが
盛り込まれた。

※詳しくは、要項をご覧ください。
定員の予定も要項をご覧ください。

問合せ：生駒市スポーツ振興課 mail: sports@city.koma.lg.jp
TEL: 74-1111(内線3761) FAX: 74-9100 (代電)

障がい(児)者のためのスポーツパーク 無料 申込不要

フルへいこう！

2020年2月1日(土)
9:00～11:45（8:45開場）
井出山屋内温水プールTACきらめき

泳ぎ方教室・アクアローリングなど
楽しいイベントが盛り込まれた。

※詳しくは、要項をご覧ください。

問合せ：生駒市スポーツ振興課 mail: sports@city.koma.lg.jp
TEL: 74-1111(内線3761) FAX: 74-9100 (代電)

表彰 対象者	所属	消防署 警備第1係	消防署 警備第2係
	職名	消防司令補(本署第2消防小隊)	消防士長(本署第2消防小隊)
	氏名	布施 要	西村 祐樹

推薦者	所属	消防署
	職名	署補佐・消防司令(第2中隊長)
	氏名	杠 敦史

標 題	第51回 全国消防救助技術大会「ロープ応用登はん」に出場・入賞！
-----	----------------------------------

評価事業種別	☒ 発信・表彰	☐ 市民協創	☐ チャレンジ	☐ 災害支援・善行	☐ 地域貢献	☐ その他（ ）
--------	---	-------------------------------	--------------------------------	----------------------------------	-------------------------------	---------------------------------

項 目	内 容
取組概要	消防司令補 布施要・消防士長 西村祐樹は、「第51回全国消防救助技術大会」(北海道札幌市)において、「ロープ応用登はん」(2人1組)の種目に奈良県代表として出場し、見事入賞を果たしました。
取組効果	消防の救助技術を競う全国大会に出場し、日頃の訓練の成果を遺憾なく発揮して優秀な成績を収め、個々の隊員の救助技術のスキルアップのみならず、更なる市民への安心を確保することに繋げ、他の隊員の模範となり、消防組織の士気向上の一助となりました。
創意・工夫した点	訓練は消防署南分署で実施していた種目で、迅速・確実な訓練方法を模索しながら、より充実した訓練環境を整えるために署員が一丸となって協力体制をとる中で、全国出場となり、見事にその成果が発揮できたと感じています。
推薦理由	「第36回奈良県消防長会消防救助技術指導会」(R5.6.20)に出場し、第1位となり、奈良県代表の座を獲得して全国大会に出場しました。 本種目として、30年振りの出場となり、「他の消防に認められ、消防をリードし、個々の技術を高める」成績となり、他の模範となるものと考えます。
その他参考事項	全国消防救助大会とは、救助技術の高度化に必要な基本的要素を錬磨することを通じて、消防救助活動に不可欠な体力、精神力、技術力を養うとともに、全国の消防救助隊員が一堂に会し、競い、学ぶことを通じて、他の模範となる消防救助隊員を育成し、国民の消防に寄せる期待に力強く応えることを目的とした大会です。

取組を表す図や表、写真、成果物など



第51回 全国消防救助技術大会 in 札幌
TOP OF RESCUE ~北の大地での挑戦~ 主催 / 一般財団法人 全国消防協会

表彰 対象者	所属	消防署 南分署救急第2係
	職名	消防士(南分署救急小隊)
	氏名	高橋 勇成

推薦者	所属	消防署
	職名	署補佐・消防司令(第2中隊長)
	氏名	杠 敦史

標 題	第51回 全国消防救助技術大会「ロープブリッジ渡過」に出場・入賞！
-----	-----------------------------------

該当事業種別	☒ 発信・表彰	☐ 市民協創	☐ チャレンジ	☐ 災害支援・善行	☐ 地域貢献	☐ その他（ ）
--------	---	-------------------------------	--------------------------------	----------------------------------	-------------------------------	---------------------------------

項 目	内 容
取組概要	消防士 高橋勇成は、令和5年8月25日に開催された「第51回全国消防救助技術退会」(北海道札幌市)において、「ロープブリッジ渡過」の種目に奈良県代表として出場し、見事入賞を果たしました。
取組効果	消防の救助技術を競う全国大会に出場し、日頃の訓練の成果を遺憾なく発揮して優秀な成績を収め、個々の隊員の救助技術のスキルアップのみならず、更なる市民への安心を確保することに繋げ、他の隊員の模範となり、消防組織の士気向上の一助となりました。
創意・工夫した点	本種目として、前年度に全国出場した隊員の訓練姿勢や取組みを参考に、より良い成果を出せるか探究し、挑戦と自己分析を繰り返すことで個々の技術を高めていく中で全国出場となり、見事その成果が発揮できたと感じています。
推薦理由	「第36回奈良県消防長会消防救助技術指導会」(R5.6.20)に出場し、第1位となり、奈良県代表の座を獲得して全国大会に出場しました。 本種目として、2年連続の出場となり、「他の消防に認められ、消防をリードし、個々の技術を高める」成績となり、他の模範となるものと考えます。
その他参考事項	全国消防救助大会とは、救助技術の高度化に必要な基本的要素を錬磨することを通じて、消防救助活動に不可欠な体力、精神力、技術力を養うとともに、全国の消防救助隊員が一堂に会し、競い・学ぶことを通じて、他の模範となる消防救助隊員を育成し、国民の消防に寄せる期待に力強く応えることを目的とした大会です。

取組を表す図や表、写真、成果物など

表彰 対象者	所属	消防署 救助第1係
	職名	消防士長(特別救助小隊)
	氏名	橋富 帝人

推薦者	所属	消防署
	職名	署補佐・消防司令(第1中隊長)
	氏名	辻本 英彦

標 題	令和5年度 全国消防長会東近畿支部 消防職員意見発表会に奈良県代表として出場・入賞！				
-----	--	--	--	--	--

該当事業種別	☒ 発信・表彰	☐ 市民協創	☐ チャレンジ	☐ 災害支援・善行	☐ 地域貢献	☐ その他	()
--------	---	-------------------------------	--------------------------------	----------------------------------	-------------------------------	------------------------------	--------------------------

項 目	内 容
取組概要	消防士長 橋富帝人は、令和5年4月27日に開催された「令和5年度全国消防長会東近畿支部 消防職員意見発表会」(石川県金沢市)に奈良県代表として出場し、見事入賞を果たしました。
取組効果	職務を通じての提言や取り組むべき課題等について発表することにより、組織の活性化と職員相互の研鑽も図られています。また、「自分たちで考えて自分たちで命を守りましょう。」といった内容を提案し発信することで、市民の防災意識高揚にも大きく貢献しています。
創意・工夫した点	防災について、こどもたち自らが考え実行し、こどもたちが検証する環境をつくるためには、どのようなアプローチが適切なのかを知るために、実際にことどもたちに問いかけ、学校授業の中に入り込み情報を集めました。
推薦理由	今回の東近畿支部意見発表会への出場は、令和2年度に続き2回目となり、「自助・共助」を捉えた「自主防2.0」と題したテーマを発表し、入賞を獲得する成績となりました。
その他参考事項	「令和4年度生駒市消防職員意見発表会」(R5.1.5)において最優秀賞(第1位)となり、本市消防職員の代表として、「第39回奈良県消防長会消防職員意見発表会」(R5.2.15)に出場し、最優秀賞(第1位)を受賞して奈良県代表の座を獲得して東近畿支部消防職員意見発表会に出場しました。

取組を表す図や表、写真、成果物など

表彰対象 団体名	緊急消防援助隊 派遣〔第1次から第4次まで〕 ～生駒市消防本部 消火小隊・救急小隊～					推薦者	所属	消防本部・消防署	
							職名	次長(署長兼務)	
							氏名	金田 和彦	
標 題	令和6年能登半島地震による被災地への災害派遣・消防活動！								
評価事業種別	☐ 発信・表彰	☐ 市民協創	☐ チャレンジ	☒ 災害支援・善行	☐ 地域貢献	☐ その他	()		
項 目	内 容								
取組概要	令和6年1月1日に「能登半島地震」が発生し、同日中に消防庁長官から緊急消防援助隊奈良県大隊への出動指示があり、生駒市消防本部として消火小隊・救急小隊の2隊を編成し、被災地となる石川県へ出動しました。以後、第4次派遣まで生駒市として延べ31人(現地での活動隊員28名・被災地までの人員搬送3名)の消防職員を派遣することとなりました。								
取組効果	緊急消防援助隊の奈良県大隊として、1月1日の出動から1月10日の解隊までの間、生駒市消防で最大限の災害派遣ができるよう 部局内で情報を共有しつつ体制を整え、生駒市消防が一丸となって、有事への対応に取り組めました。								
創意・工夫 した点	地震発生後、すぐに応援のための出動準備に取りかかり、緊急消防援助隊の出動要請時には既に出動できる体制を整えていました。また、派遣期間中は交替勤務者の勤務割振りや毎日勤務者の当直など、限られた人員と装備の中で、各所属間で連携を図りながら、本市の消防業務に影響が出ない態勢を確保しつつ災害派遣を行いました。								
推薦理由	小規模な消防組織の中で消火・救急の2隊を被災地に派遣し、現地での過酷な状況の中、一人でも多くの方々を救えるよう消防の使命を果たすべく被災地での活動に尽力したと考えます。								
その他 参考事項	X(旧ツイッター)へ可能な限り定期的な掲載を行い、多くの方々から消防への期待・激励等のご支援ご声援のお言葉をいただきました。								

取組を表す図や表、写真、成果物など



表彰対象 団体名	人事課
-------------	-----

推薦者	所属	人事課
	職名	課長
	氏名	井上 博司

課題	障がい者が安定して働き続ける職場を目指して、「ステップアップ制度」を策定・運用開始
----	---

評価事業種別	☒ 発信・表彰	☐ 市民協創	☒ チャレンジ	☐ 災害支援・善行	☐ 地域貢献	☐ その他（ ）
--------	---	-------------------------------	---	----------------------------------	-------------------------------	---------------------------------

項目	内容						
取組概要	障がいの有無に関わらず、誰もが意欲や能力に合った仕事を通じて活躍できる共生社会の実現を目指して、障がい者が会計年度任用職員として一定期間働いた後、選考を経て正規職員（技能職）になることを可能とした「ステップアップ制度」を策定しました。 令和6年4月から、本制度による任用を開始予定です。						
取組効果	令和4年度に障がい者を対象とした採用試験で、市役所、図書館、保育園・幼稚園等での勤務を想定した会計年度任用職員（一般事務補助）を初めて採用しました。 また、今年度ステップアップ制度の条件を満たす9人全員から申し込みがありました。 本市の障がい者雇用率は令和2年度1.8%、令和3年度1.65%、令和4年度2.7%、令和5年度2.8%と年々上がり、地方公共団体に求められる法定雇用率2.6%を達成しています。						
創意・工夫した点	令和2年度から就労移行支援事業所、県内の養護学校、奈良労働局などに相談しながら、個別に就労をサポートする体制を構築。入庁前には障がい状態、自分でできる対処法、配慮してほしい事項、希望の仕事などを聞き取り配属先を選定しました。入庁後は外部の障がい者雇用コンサルタントと連携して定期的な面談で業務や生活、その他悩み事を聞き取るとともに、受け入れ所属の職員とも面談を行い、コミュニケーションが取りやすい環境整備を進めています。						
推薦理由	障がい者の就労支援体制構築のため、数年にかけて検討をかさね、全国的にも先駆けてステップアップ制度を構築。県内外の自治体・支援事業者のみならず、国・メディアからも注目され、厚生労働省の優良事例として取り上げられる予定の事業であるため。						
その他参考事項	全ての事業主に、障がい者雇用率達成義務が課されており、また法定雇用率は今後段階的に引き上げられる。 ・地方公共団体に求められる法定雇用率 <table><tr><td>令和3年3月</td><td>令和6年4月</td><td>令和8年7月</td></tr><tr><td>2.6%</td><td>2.8%</td><td>3.0%</td></tr></table>	令和3年3月	令和6年4月	令和8年7月	2.6%	2.8%	3.0%
令和3年3月	令和6年4月	令和8年7月					
2.6%	2.8%	3.0%					

取組を表す図や表、写真、成果物など

1 ステップアップ制度任用の概要

対象者：本市で10か月以上任用されており、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳等を有する会計年度任用職員

募集職種：①任期付き短時間勤務の技能職員（任期3年、最長5年）
②任期の定めのない技能職員
※②は、①の任期付き短時間勤務の技能職員として週5日7時間勤務で1年以上継続的に勤務し、②として任用後に定年退職まで5年以上勤務できる人が対象。

2 本市の障害者雇用率の推移

年度	雇用率
令和2年度	1.8%
令和3年度	1.65%
令和4年度	2.7%
令和5年度	2.8%

3 メディア等取材

- ・奈良新聞(R5.7.21)、毎日新聞(オンライン含む)に掲載
- ・奈良労働局、厚生労働省職業安定局から「障がい者任用合理的配慮好事例集」作成のための取材

表彰対象 団体名	建設部 事業計画課 交通対策係					推薦者	所属 建設部
							職名 部長
							氏名 米田 尚起
標 題	「バス」をつかってお出かけしよう バス運賃100円DAY - 今あるバスを未来に残していくために -						
評価事業種別	☐ 発信・表彰	☐ 市民協創	☒ チャレンジ	☐ 災害支援・善行	☐ 地域貢献	☐ その他	()
項 目	内 容						
取組概要	・1乗車100円で市内バスが利用できる利用促進を6日開催(8/3~5, 11/3~5) ・市内をバスで回る「市内周遊スタンプラリー」を同時実施 ・利用促進・啓発イベント「バスまつり2023」をどんどこまつりと同日開催 運転手なりきり撮影会 / バス缶バッジ作り / シーカくんたけまるくん 夢の共演						
取組効果	・通常日と比べ 約1.5倍の利用者増 ※期間最大値 8/5どんどこまつり実施日 ・バスが身近になった 83%/バスを利用しようと思う 72% ※アンケート結果 ・ブース来場者1700人 スタンプラリー協力店舗40店・参加者約400人						
創意・工夫 した点	・バスに馴染みがない人に、バス利用の”きっかけ”をつくる ・子どもの参加意欲を高めるため、スタンプラリー景品にグッズを作成・配布 ・長期利用者 獲得のため、ターゲットを子育て世代に設定 ・奈良交通(株)と連携実施 公民連携による公共交通 利用啓発						
推薦理由	・公共交通の持続性が大きく揺らいでいる現状を受け、市と奈良交通(株)が相互に連携し、初の利用促進大型イベントを創意工夫を凝らし実施した。 ・イベント実施を通し、多くの市民に現状を伝え、バスに乗るきっかけづくりを行い、新規利用者の獲得とバスの認知度を向上させ利用促進につなげた。						
その他 参考事項	・イベント実施にあたり、バス路線沿線の飲食店40店舗や商工会議所、市職員など、多くの方々の協力を獲得 ・広報「いこまち」による周知に加え、「県民だより」「すぐーる」「市内全自治会」「近鉄百貨店生駒店」等多くの関係者の協力を得て広報・周知を実施						

取組を表す図や表、写真、成果物など

表彰 対象者	所属	営繕課
	職名	主任
	氏名	藤岡里香

推薦者	所属	営繕課
	職名	課長
	氏名	田中 洋

標 題	小平尾桜ヶ丘住宅外壁改修工事について
-----	--------------------

該当事業種別	☐ 発信・表彰	☐ 市民協創	☒ チャレンジ	☐ 災害支援・善行	☐ 地域貢献	☐ その他（ ）
--------	--------------------------------	-------------------------------	---	----------------------------------	-------------------------------	---------------------------------

項目	内容
取組概要	市営住宅長寿命化計画に基づき、約30年が経過し劣化が進行している市営住宅の外壁改修工事を行う。
取組効果	今回、外壁改修を行うことにより、今後25～30年程度の使用が可能となる。
創意・工夫した点	仕上塗材等の石綿含有状況を確認したところ、外壁下地調整材に石綿の含有が確認されたため、急遽工事内容を見直し工事範囲を縮小し下地処理をすることとした。石綿の漏えいを避けるため労働基準監督署の指示及び先進的な施工事例を参考に工法を選定した。
推薦理由	石綿含有が確認されたことにより、大幅な工事費増と工期延長が懸念されたが、適切な工法選択と内容変更することができた。また、本市で初めての工法を選択している。
その他参考事項	

取組を表す図や表、写真、成果物など
